

第1回県立高等学校改革懇談会（いわき総合・好間）記録

日時 令和4年7月21日（木）15時00分～16時30分
会場 いわき総合高等学校 会議室
傍聴者 7名

進行

- (1) 開会
- (2) 県教育長挨拶

県教育長の大沼でございます。皆さまにおかれましては、日ごろより本県教育に多大なる御理解と御協力を頂き感謝申し上げます。

ただ今、懇談会の委員の皆様にご依頼状を交付させていただきました。皆様には御多用中にもかかわらず委員をお引き受けいただき、本日の改革懇談会へ御出席を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

また、本日は、いわき市全体の教育環境整備の観点から御意見を頂きたく、内田広之いわき市長にも出席を頂いております。重ねて御礼申し上げます。

さて、福島県教育委員会におきましては平成28年に、各界の代表の方々からなる、学校教育審議会から頂いた答申をもとに、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す長期計画として、平成30年5月に「県立高等学校改革基本計画」を策定いたしました。

この中では、少子化により県内の中学校卒業者の数が、10年間で5,300人減少するという実態を踏まえ、3学級以下の学校は統合する方針を示しつつ、その一方では、高等学校に求められる学びの在り方や地域における役割などを踏まえ、学校の位置づけや特色を明確にし、魅力ある高等学校づくりを進めることとしております。

このため前期実施計画期間中の成果と課題や令和3年12月に策定した第7次福島県総合教育計画を踏まえて、令和6年度から10年度までの具体的な取組を示すものとして、後期実施計画を今年1月に策定いたしました。

この地域におきましては、いわき総合高等学校と好間高等学校を統合し、総合学科の特色を生かした、地域を支える核となる人材を育成する、新たな高校を設置する方針をお示しいたしました。

いわき総合高等学校は、平成16年に内郷高校より総合学科への転換が行われてから、19年目を迎えております。また、好間高等学校は、創立75周年を迎えており、両校とも地域を支える多くの有為な人材を輩出してまいりました。それだけに、関係の皆様両校に対する熱い思いは、重々承知しております。

しかしながら、将来を担う子どもたちに、より良い学びの環境を継続的に提供することが、我々の責務であると判断し、苦渋の選択ではありますが、両校を統合する方向性を示したところであります。

本日は、地域の有識者の皆様や、学校関係者の皆様にお集まりいただき、後期実施計画策定の経緯、そして新たな学校の在り方等について説明させていただいた上で、皆様から御意見を頂きながら、今後の教育環境について、ともに考えてまいりたいと思っております。

どうぞ忌憚のない御意見を頂きますようお願い申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

- (3) 説明
- (4) 懇談

<懇談>

【菅野崇】(県立高校改革監)

本日は、地元いわき市の内田市長に出席をお願いしている。はじめに、内田市長より、統合に関する御意見などを頂きたい。

【内田広之】(いわき市長)

丁寧な御説明、誠に感謝申し上げます。今、少子化の中で、高校の規模の在り方が課題になってきている事は、重々、承知している。私も、市長になる前、教育行政の現場に長くいたので、他の県でも、高校統合の仕事をした事があった。そういう中で、例えば、秋田とか岡山で経験した時は、まず、最初、それぞれのエリアで「定員が満たされていないような高校」「存続が厳しいような高校」などのリストを上げながら「ここは、廃止かもね」「ここは統合かもね」などという事を何年か議論した上で、統合案を打ち出すという形が多かったのだが、今回の場合は、福島県全体、そのような整理になっているようだが、その中で「いわき総合高校と好間高校が統合する」と、突然ニュースで知ったわけである。それで、今回の統合は「まず、統合ありき」というような形で、報道に出てしまったので、いろいろ地元に影響を及ぼしているのではないかと心配している。そういう意味で、確かに子どもたちの数というのは、大事な視点であると思うが、数ありきではなく、まずは地元の意見をしっかり聞いていただきたいと思っている。過去、小名浜高校といわき海星高校、湯本高校と遠野高校、それぞれが統合した。これらの学校が統合する時も、「もう少し、地元の声を聞いて欲しかった」という声を聞いた事があったので、まず、プロセスとして丁寧に、地元の声を聞いて頂けると、ありがたいと思っている。そういう中で、100%、みんなが納得するような答えを出すというのは、到底難しいとは思いますが、やはり、地元の方や、生徒の学びたい学習内容などの声を、しっかり汲み取っていただければ、今後の議論のために有難いと思っている。

それで、本日は、地元の工業界、商業界の関係者が多く来ているが、県立高校の在り方を考える場合、「地元の地場産業や商工業が、今後、どうなっていくか。どういうニーズがあるか。」という事と、高校の在り方が連動していると思っている。例えば、いわき市の課題で申し上げますと、介護や福祉の人材が、かなり不足している。あとは、ICT、IT 関連のニーズは高まってきている。今まで、震災後の復興の中で、IT 産業は、いわき市の中で弱かった部分だったが、最近は力を入れ始めている。それで、いわき総合高校・好間高校の卒業生の進路先を見ると、就職や専門学校への進学が大半を占めている。このような進路に進む方々と、地元の産業界を、うまくミックスさせて考えていく必要があるのではないかと考えている。今、いわき市の現状を申し上げますと、いわき市全体で、高校卒業後、就職を希望する人は、およそ 700 人いる。それに対して求人は、1400 人と 2 倍ほどある。数字だけ見れば「沢山、就職口はあるのではないか」と思われるかもしれない。しかし、その中身は、事務職の求人が 70 人で、あと過半数は、製造業関連の求人という状況だ。そういう事もあって、女性の他県や他市への進出が進んでいる。高卒女子の 3 分の 1 は、首都圏へ流れている。加えて、高卒男子の 4 分の 1 が、首都圏へ流れている。やはり、これからは、「地元で定着して残ってもらう」「専門学校で学んでも、将来、地元に戻ってきてもらう」などといった事を意識した学科構成であるとか、総合学科の中でも、コース編成などを、先程申し上げた、

「福祉」に並べて「IT」など、今後、「どういう地元産業に力を入れていくべきなのか」という事を商工会議所などでも構想を練っているのでは、そういった部分でのカリキュラムが必要になってくるのではないかと思う。今まで、私たちの時代、子どもが多くいた時代は、子どもたちの興味に応じて進路先を決めるようにしていても、地元に残ってくれる人がいたと思う。しかし、これからの時代は、少子化の中で、「地元の産業界を盛り上げてくれる」「地元に戻ってきてもらえる」といった観点での人材育成が大事になってきており、そういう事をしていくのが、「真の復興」だと思っているので、地元の産業界、商業界に耳を傾けた上で、の学級編成とか、あと、この度の統合全体に関しましても、そういった姿勢で進めていただくと、地元の首長として、非常にありがたいと思っている。

【中野正人】(県立高校改革室長)

只今、市長から、御指摘、御提案を頂いた。総合学科においても地元で活躍する人材育成というところは、大きな課題として、我々も捉えている。統合校においても、そういった視点を持ちながら、系列、教育内容等を整理していきたいと考えている。

【菅野崇】(県立高校改革監)

やはり、数ありきの統合という考え方ではなくて、今回の統合を機に地域にとって必要な学びの場をしっかりと作ることが、我々に課せられた課題であると認識している。これから、そういった点をしっかりと踏まえていながら、地域の方々の意見をお聞きしながら、進めていければと思っている。

それでは、その他の皆様から、御意見を頂きたい。

【前田賢一】(いわき総合高校 PTA 会長)

今回の統合は、好間高校の方が、いわき総合高校に来るような形での統合という事になるのだが、好間高校サイドの方では、今回の統合に関して、要望や懸念する部分はあるか。

【伊藤さおり】(好間高校 PTA 会長)

湯本高校と遠野高校が統合されたいわき湯本高校の生徒さんから話を聞いたが、まず、先生は、「今日は、湯本の先生が、午前中は本校舎にいて、午後から遠野の校舎に行く」といったような動きをしている。それで、遠野校舎の生徒の2年生と3年生は、遠野校舎に残って授業を受けており、始業式など区切りの行事の時、本校舎に来るだけのようなのだ。だから、先生の動きだけを見ていると、何かに追い回されているような感じがするという事だった。それで、カリキュラムが違う生徒同士は会う事がほとんど無いそうだ。

今回、好間高校といわき総合高校は令和7年に統合される。これは、今の中学校3年生が高校3年生になった時だ。そこで、今の中学3年生に話を聞くと、「自分としては、どうなるかは分からない。一体、高校3年生になったら、何が変わるのか見当がつかない。」という話だった。新しく入学した1年生だけが、いわき総合の校舎に通い、2,3年生は、始業式などの行事の時だけ一緒になるような形になるのか、その辺りをこれから煮詰めていくことになるのか。

【前田賢一】(いわき総合高校 PTA 会長)

「校舎方式」という事で、統合前に入学した生徒が、そのままその入学した学校の校舎で

学校生活を送るという事だが、これは問題無いと思う。逆に、学び舎を移していくという事も、一つの方法であると思う。

【伊藤さおり】（好間高校 PTA 会長）

両校のカリキュラムが違うので、統合した後はどのようになるのか。

【前田賢一】（いわき総合高校 PTA 会長）

その辺りは、今後、両校の先生方がすり合わせていくことになると思うのだが。

【菅野崇】（県立高校改革監）

それでは、統合した際に、すでに入学している生徒がどのようになるのか、説明したい。

【中野正人】（県立高校改革室長）

今回の計画では、令和7年度の4月、統合校が開校する。それ以前に、いわき総合高校、好間高校、それぞれに入学していた生徒は、統合時、「統合校の2年生、3年生」になる。しかし、高校のカリキュラムは入学の段階で決まっているので、統合前、いわき総合高校に入学した生徒は、いわき総合高校のカリキュラムを3年間学んでいき、好間高校に入学した生徒は、好間高校のカリキュラムを3年間学んでいく事になる。統合と同時に入学した1年生が、新たな統合校のカリキュラムを学んでいく事になる。カリキュラム自体は、それぞれの高校に入学した段階で、その学校のカリキュラムで学ぶことになるが、卒業証書の校名は統合校の校名になる。

【伊藤さおり】（好間高校 PTA 会長）

部活動は、同じ部ならば、一つになって活動する事になるわけで、統合した年の2年生、3年生は、いわき総合高校に行って活動するような形になるのではないかと考えている。

【前田賢一】（いわき総合高校 PTA 会長）

部活動においては、今まで、敵だったチームと組む事になるわけである。選手としては、最初は、若干、抵抗があるかもしれない。しかし、同じスポーツを志す者同士だから、おそらく馴染んでくると思う。ただ、統合してから3年ないし4年くらいの間は、いろいろと混乱が生じるかもしれない。おそらく、先生方は対応に苦労されると思う。しかし、そこは、しっかりと話し合いなどをしていけば良いと思う。そうなれば、自ずと、スムーズに事が運ぶのではないかと考えている。

【菅野崇】（県立高校改革監）

いわき湯本高校では、先程、発言にあった通り、「校舎方式」という形で、それぞれの校舎で学んでいき、卒業していくというスタイルを取り入れている。他の学校では、これと反対で、最初から統合校に生徒を全員集めて、学校生活を送るという方式を取っている所もある。ただ、授業の内容は、元々入学した学校のカリキュラムに沿って、勉強していく事になる。それで、今、教えていただいたように実際に統合された学校で学んでいる子どもたちの声というのは、我々にとってこれからの統合を考えていく時の貴重な意見であるので、大変、参考になった。

【伊藤さおり】(好間高校 PTA 会長)

「湯本高校」に入学したのに、その学校が「いわき湯本高校」に変わったという事について、現役の子どもたちは、意外と抵抗感が無いようで、あっけらかんとしている。しかし、「湯本高校」の卒業生からしてみれば「母校の名前が無くなる。淋しい。」という事で、気にしている人が多いようだ。

【菅野崇】(県立高校改革監)

統合すると、全く新しい学校という事で、学校名が変わってしまう。そうになると、同窓会の方は、今まで、その学校を自分達が支えてきたという気持ちがあると思うが、いわき総合高校の同窓会長さんは、いかがか。

【斉藤祐二】(いわき総合高校同窓会長)

やはり、時代の流れという面から見れば、統合は「仕方ない」と思う。来年、いわき総合高校は、この校名になってから 20 周年になる。もう旧内郷高校時代の 100 年だということも言っても仕方が無い。いわき総合として 20 周年ならば、そうなんだという考えしかない。役員会でも話が出ているが、それはしょうがないという意見である。今回の統合についても、同じようなレベルで、好間高校が内郷高校の分校であったことは関係なしに、令和 7 年度からは、前向きにやっていくのが理想であると思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

同じく、好間側、校舎を変わってもらおう計画としているが、好間高校の同窓会では、いかがか。

【吉田定聡】(好間高校同窓会副会長)

好間は、元々炭鉱で発展した地域で、私が住んでいる所は、かつて人口が 2 万人くらいいた。だから、現在廃校になった好間第三小学校は、炭鉱ありきで設立した学校だった。そして、好間高校は、元々内郷高校の分校から分離独立をした学校である。それで、先程、内田市長が言われたように今回の改革は「統合ありき」での計画発表だったので、我々が、あれこれ言うのではなく、今後、子どもたちが統合後、きちんとした学びの道に進めるようにしていただければ良いのではないかというのが本心である。同窓会として、統合は「致し方無い」「しょうがない」と思っている。とにかく、統合については、上手くまとまってもらいたいという考えだ。実際、「統合」と言われても、子どもたちは分からないと思う。我々卒業生がどう思うかは分からないが、あまり大きな反響は無いと思う。統合については、上手くまとめてもらいたいと思う。仮に統合が実現すれば、好間地区の人の流れが変わる事になるだろう。ただ、これは、炭鉱が栄えていた時代から今に至るまでの事を鑑みれば、「人の流れが変わっている事は、ずっと続いている」という事で、納得できるのではないかと考えている。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今、地域の人の流れが変わるという話があった。市長からも、地域の産業との関わりも統合校には求められるとの意見があった。地元の皆様にそれぞれ学校を支えていただいている

が、地元から考えがあれば、お聞かせ願う。

【会田和子】(有識者)

私は、いわき総合高校の学校評議員をやらせていただき、10年来学校を見てきた。それで、総合学科ができた時は、新しい試みという事もあって、先生も生徒も未来に向けて何か変わっていくというイメージがあったので、一丸となって進めてきたと思う。ただ、今、世の中の流れが、どこの地域も「学校を統廃合しよう」という事になっている。これは、人口が減少しているからやむを得ない事だと思う。そのような流れの中で、普通科の学校は、総合学科を取り入れて、特色化を図っていこうという傾向になってきている感じが強い。そういう意味では、いち早く総合学科を取り組んできた学校の先生方は、カリキュラムの内容を工夫してきたので、いろいろなノウハウを蓄積していると思っている。だから、今回、止む無く、好間高校が、いわき総合高校と統合するのは、「妥当な選択」「賢い選択」になるのではないかと思った。それで、全体的な視点から見ると「人間力」あるいは「コミュニケーション能力」などが重要視される傾向がある。だから、企業側の人間は「コミュニケーション能力が高い人が良い」などという事を言う。ただ、基本は、「いかに、確かな学力を身に付けて、さらに、資質を深掘りさせてくれるような高校生活をいかに送れるか」という事に掛かってくると思う。だから、そういった学校を作れば、みんな集まってきて、生徒数の減少を食い止める事ができると思う。ただ、ここで、統廃合するからといって、今までのような授業の方法だとか、先生の体制をそのままにしてやってしまったのでは、何も変わった感じはしないし、子どもたちが、新たな発見をするという事が難しくなってしまうのではないかと心配している。

また、好間高校は、建物が町の中にある。それで、仮に統合すれば、好間地区の人の流れが、あからさまに変わってしまうのではないかと心配している。そこで、伺いたいのは、統合後、好間高校の建物をどうするかという事だ。そのまま残すのか、使えない状態なので壊してしまうのか。あるいは、廃校施設を、我々が提案して利活用する事が可能なのか。そのところを答えて頂きたい。好間地区から高校が消えるという事は、町から「学校の火」が消えてしまうという、大きな出来事だと思うので、私個人としては、コミュニティセンターなど、高校生と地域の人達が一緒になって学べるような施設にして、人の流れを変えないようにする事を期待したい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今の時点で、我々は、統合計画を皆さんに示した段階で、具体的な部分を示すまで至っていない。今後、そういった所をどうするか、各方面と相談しながら、検討していきたい。

【鈴木礼子】(有識者)

統合するのは、県側の決定事項なので、やらなければならないと思うのだが、私自身、ずっと地元に住んでいて、内郷地区というのは、お医者さんが大変多い。そうになると、いわき総合高校ができた時に、医療系の学びが充実して、資格も取る事ができるような形になる事を想像していたのだが、途中から、医療に関係の無い分野の総合学科が多く見受けられるのが、残念だと思っている。それで、いわき総合高校の総合学科は、何がメインになるのか。いわゆるメインとなるものを作ってあげないと、子どもたちが迷ってしまう。例えば、「工業系の高校なら機械類の資格が取れる」、「商業系の高校なら珠算などの資格が取れる」など

と、はっきりとした名目が、いわき総合高校には無い。今後も「総合学科」で動くのであれば、特徴を持たせたい。いわき地区では総合学科は一校だけだから、特徴を持たせたい。せっかく、好間の学生が来てくれるのであれば、何か「魅力」を一つ作ってあげたい。そのためには、内郷の地域を見ると医者関係が多い、介護しかり看護の資格が取れるなど「この学校に来れば、特定の資格が取得できる」というメインになるような学びを提供すれば、分かりやすいのではないかと思う。そうすると、好間の方々も「いわき総合と統合して良かった」と思うようになるだろう。遠野高校と湯本高校が統合した時、不平不満は出たと思う。だから、そういった不平不満が出ないように、特徴を持っているいわき総合であるからこそ「これがメインである」という学びが提示できるよう、県の方で考えていただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

統合校に、具体的にどういった特色を持たせていくのかというのは、これから、両校の先生方の御知恵を頂きながら、我々も一緒になって考えていきたい。今ほど「資格取得」についての御意見があったが、現状、「何らかの資格が取れる」というところまで、高校3年間の学びで届くような制度になっていない実状であるので、実際、「こういった資格が取れます」というのは、難しいと思う。

【鈴木礼子】(有識者)

そここのところを、何とかするのが県の役割だと思う。「そういった所まで面倒を見ましょう」というのが県の仕事ではないか。「やれない」ではなく、やっていただきたい。

【中野正人】(県立改革室長)

御意見として、頂戴したいと思う。特色として何ができるのか、何を挙げれば良いのかという部分については、今後、更に検討していきたい。

【三井真紀】(有識者)

お二方と同意見である。教員に関して、好間高校の先生方は、いわき総合と統合した時、どのような待遇になるのか。そのまま、統合高校に異動になるのか。

【中野正人】(県立高校改革室長)

今の段階では、いわき総合高校の校舎を利用するという事で、両校の先生方、生徒さん達が一緒になるという形を考えているが、先程、「校舎方式」というのが話題に上がった。そういった意味では、今後、どういった形が良いのかという所も考えていきたい。実際、「校舎方式」が採用されれば、先生方は、それぞれの校舎に配置される事になるが、配置については、人事と絡む話になるので、そういった部分を整理しながら話を進めていきたいと思う。

【荻野靖】(有識者)

今回の統廃合についてだが、少子化の進行を鑑みれば、仕方が無いのではないかと考えている。また、「在校生においては、今の学び舎で、そのまま卒業していただく。新たに入学する生徒に関しては、統合高校の校舎で一緒に学んでもらう」という学習環境も、致し方無いのではないかと考えている。例えば、今、部活動でも、野球は最低9人必要だが、なかなか9人さえも集まらない。それで、他校と一緒に大会に出るような状況になっている

中で、統合する事によって、生徒の数も、ある程度維持する事ができて、部活動に関しても、仲間が増えれば、「勝ってやるぞ」という気持ちにつながってくると思う。そういった学び舎が、これからできるという事は、これから進学する生徒にとっても、良い事になるのではないかと思う。結論として、統合に関して、私は賛成である。

それで、今度、新たに「総合学科」の学びという事になるのだが、実際のところ、生徒の皆さんは、本当に、総合学科における多様な科目を学びたいのかと考えた場合、選択肢としては、例えば「自然科学を希望する生徒が少ない」などといった形で、偏りが生じてしまうのではないかと危惧している。とにかく、総合学科という事で、学びを持てる機会があるのであれば、もっと多様性を考えて、これらを含めた形で、生徒にいろいろな選択科目を自由に選ばせるような総合学科でも良いのではないかと思う。さらに、もう一つ、申し上げさせてもらうが、元々、いわき市というのは「常磐炭鉱」で名を馳せた町になる。そこから、炭鉱が閉山になって分業化されて、今の工業都市になっている。いわき市は、東北の中でも、工業生産高で宮城県の仙台市とせめぎ合っている。それで、統合校の総合学科の中に、地元の企業が「こういった学びを持った生徒に、是非、来ていただきたい」といったような系列を設けてもらうと、いわきから、若人が離れていく割合が減少してくるのではないかと思う。だから、総合学科において、「新たに幅を広げていく」という事にするならば、もう少し、地元企業の声も聞いてもらって、選択科目として取り入れていただき、地元を活性化させて、人口流出を抑えるという事も必要なのではないかと思う。まとめると、新たに総合学科を組み入れる事に、私は賛成である。

【中野正人】(県立高校改革室長)

部活動について、統合すれば人数が増え、それによって活動自体が活性化するという状況は、すでに統合している高校でも見受けられる。そういったところは、一つの成果として、しっかり捉えていきたい。それから、今程、総合学科の系列について「多様性があるような形の方が、より子どもたちのニーズ、あるいは地元のニーズに答えた人材育成ができるのではないか」という御意見だったと思う。そういった御意見をしっかりと受け止めて、検討させていただきたいと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今、「子どもたちのニーズ」という言葉が出てきた。そこで、中学校の先生にお伺いしたい。最近の中学生は、どんな事を考えているのか。あるいは、どのような事に関心をもっているのか。教えていただきたい。

【小野匡之】(内郷第一中学校長)

去年から今年にかけて、中学校や小学校では、タブレット端末が導入され、授業が一変した。今現在では、タブレット端末を自宅に持ち帰らせて、家庭学習にどうやって活かしていくのか、検討中である。中には「このような物を家に持ち帰らせたら、子どもが家で動画ばかり見て、寝る時間が遅くなる」と、怒る方もいた。少し前まで、私たち教員には、考え付かなかったような新しい動きが、今、中学校の現場に出てきている。これは、皆さんも実感していると思うが、子どもは覚える事が早い。私たち教員がもたもたして操作に戸惑っている横で、子どもたちは、どんどんタブレット端末を容易に操作している。このような状況なので、子どもたちの新しい物に対する吸収力は、大人が想像する以上に、素晴らしいものが

ある。あと、もう一つ、皆様の話聞いていてすごく納得したのが、いわき市の文化を振り返る時に、やはり「炭鉱」というものがとても大きな役割を果たしていたという事である。炭鉱で働こうとする人が全国から集まってきて、そこで、全国各地の文化を学びあっていた。炭鉱が栄えていた時のいわきは、本当に素敵だったと思う。しかし、その後、炭鉱が無くなってしまった。これは、とても悲しい出来事であった。でも、そこで、また新しい文化をいわきの人々は作ってくれた。それが「スパリゾートハワイアンズ」であった。内郷地区であれば「医療の中心的な位置付け」であるだろう。それから、最近であれば「いわきワイナリー」とか「いわきライキ」のようなもので、いわき独自の産業を生み出していこうという事で、今、地元の企業家の皆さんは頑張っている。私は、地元有識者の皆様の御意見が、本当に素晴らしいと思ったのだが、せっかく新しい学校を作るのであれば、その「吸収力」のある子どもたちに、大人たちが、みんなで力を合わせて提案する。そして、「どうだい？君たち、やってみないか？力を貸してくれないか？『新しいいわき』を作ってみないかい？」といった提案を、内郷地区、好間地区の子どもたちにしていただければ、多分、彼らは「やる！」と言ってくれると思う。

市長も仰ったが、私たち、大人の責務として、せっかく新しい高校を作るのであれば、従来の学力向上とか、生徒指導、部活動などではなく、今のいわきが、これからも繁栄していくために、「この分野では、絶対、いわきとしては力を入れていく」というものを企業の方や行政の皆さんに、お力添えを頂いて、その中で、「新しい総合高校では、このような子どもを育成していこう」という目標を持つようにしていけば良いと思う。そして、いわきには弱みの部分もある。過疎の進行、あるいは林業の衰退、それから最近では、漁業も苦しんでいると聞く。そういった苦労している分野の人たちに、ひよっとしたら、若い力が戦力になってくれるかもしれない。また、私たちが諦めかけていたところで、新しい方法、例えば、ICTなどを活用して、新しい感覚で再生復活という事もできるかもしれない。そのような研究をされているような方々の、知恵を拝借して、伸ばす分野と、逆に落ち込んでいるけれども、テコ入れする事によって助かるかもしれない分野を大人の皆さんで、ビジョンを出し合い、そして、高校生や中学生に意見を求めていくのは、いかがなものかと思いながら、お話を聞かせていただいた。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今、子どもたちから地域の産業に対する提案をしてもらって、いわきの地域力を上げていくといったお話しであったと思う。行政の側から見て、今の希望は、どのようにお考えになるか。

【木田努】(いわき市政策企画課長)

皆さんの意見を聞いての率直な感想として、すごく前向きに、ポジティブに「何かを生み出そう」という気持ちがすごく伝わってきた。この議論の中で、このテーマをみんなで検討していけば、結構、良い提案になるのではないかと考えている。市長も申し上げた通り、地域の人材を、いかに育てていただけるかというのが、ポイントになると思う。これからのいわきを担っていただく人材をいかに確保できるかという事で、校長先生からもあったように、大人の我々が、知恵を出し合いながら子どもたちに聞いてみるのが良いと思う。それから、先程出た「地域特性」についてだが内郷地区では「医療・介護」という分野があるが、そういった「地域背景」を加味しながら、企業の皆様や、関係団体の皆様の声を聞きつつ、どの

ようにすれば、地域の人材を育てていけるか、上手く持っていつていただければ良いのではないかと考えている。そのために、行政としてもできる事があれば、御支援させていただきたい。

【鈴木礼子】（有識者）

いわきには「フラガール」というものがある。フラガールのチームは、好間にも、いわき総合にもあり、お互い一生懸命頑張っている。それで、以前、いわき市で行われた「太平洋・島サミット」において国際交流が図られ、すごく良かったと記憶している。それならば、「フラダンス」で国際交流を図るようなすれば良いのではないかと思う。できれば、統合を機に「国際交流館」のようなものを作れば、面白いのではないかと思う。

それから、今日、皆さんは、ここに来る時、道路の狭さに気づかなかったか。子どもたちは、内郷駅前から学校まで歩いて登下校している。それで、こちらが車を運転していると、子どもたちと接触しそうになる。明るい時間帯は、まだ良いが、夜、暗い時間帯だとブロックしかない所で、ブロックが見えない状態になる。そうすると、子どもたちと接触しそうになってしまう。過去において、この道路で大きな事故はない。ただ、あそこは、通学路として危険だ。今後、統合されれば、学校の人数が増える。必然的に、この道路を歩く生徒が増える。とにかく、あの周辺を一度歩いて見て頂きたい。

【内田広之】（いわき市長）

あの辺りは、何度か、実際に見ている。道路の工事については、県の補助も頂きながら、考えていきたい。

【鈴木礼子】（有識者）

ブロックだけでは、厳しいので、できればガードレールを設置していただきたいと思う。

【内田広之】（いわき市長）

その件については、重く受け止めたい。

【鈴木礼子】（有識者）

おそらく、道路の拡張は難しいと思う。ただ、通学路に適するような形にしてみようと、非常にありがたいと思う。いわき市と県で協力していただけると、統合した時に「わあ、すごいな」と、みんなが喜ぶと思う。あと、街灯も無いそうなので、重ねて検討していただきたい。とりあえず、一つ一つ理解してもらえれば良いと思っている。

【菅野崇】（県立高校改革監）

市の教育環境という観点から、統合についてどのようにお考えか、御意見を頂きたい。

【鈴木路人】（いわき市教育委員会学校教育課管理主事）

まず、個人的な話になり恐縮だが、私は、かつて、内郷第二中学校に勤務していた。加えて、好間中学校にも勤務していた。だから、本当に、この2つの高校には、たくさんの卒業生が御世話になった。生徒たちに対しては、本当にきめ細かな指導をしていただき、結果、高校卒業後、地元で活躍している子はたくさんいる。これに関しては、大変ありがたく思っ

ている。その中で、只今、多くの方々から建設的な御意見を頂き、我々も、教育委員会という立場だけではなく、何となく勇気を貰えて、今後、いわき市が、また発展していくであろうと感じている。

私の方からは、市全体の「進路指導・進路相談」という事で、お話をさせていただければと思う。「進路指導・進路相談」と言うと、どうしても中学3年生というイメージがあるが、やはり、キャリア教育の観点から見ると、小学生の児童、中学1年生、2年生にも進路指導はある。そういったところで、統合に関しては、子どもたち、それから保護者の皆様、そして教職員が注目している中で、「いろいろな事を知りたい。情報が欲しい。」と思っているのが、本音ではないかと感じている。とりあえず、今日がスタートになるわけだが、今後、統合するのであれば、学校の特色、イメージ、コンセプトなどが出てくると思うが、そういったものを、早く周知させて、いわき市全体の児童、生徒、保護者が、目標や夢を持った取り組みができるように、私共も示していけるように努力したいと思う。いろいろ情報提供していただければ、ありがたいと思っている。あと、今後のロードマップも含めて、お願いできればと思う。どうか、よろしく願います。

【中野正人】(県立高校改革室長)

今後、統合校の方向性については、話を煮詰めた上で、魅力化、特色化を図っていく流れになっていくと思う。それで、令和7年度の統合を予定しているが、その前々年度、令和5年度、中学2年生を対象とした説明会を行っていこうと考えている。そのためにも、より具体化した特色をお示しできるように、両校の先生方と一緒に、検討を進めて参りたいと思う。その際には、いわき市の教育委員会様に、御協力をお願いする事になると思うので、よろしくお願ひしたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

これまで、統合校に関して前向きな御意見をたくさん頂いた。一方で、課題として考えなくてはいけないこともあろうと思う。その点で御意見頂きたい。

【齊藤祐二】(いわき総合高校同窓会長)

令和7年度に統合するという事だが、現状、いわき総合高校の校舎は、過去の地震の影響などで、壊れている部分や修理が必要な部分が多くある。そここのところを少し考えていただきたい。なお、それについては、校長先生が一番分かっていると思う。それから、いわき総合高校の場合、雨が降ると、校庭がすぐに水浸しになってしまう。それは、何故か。実は、用水路の所有が国で、管理がいわき市、施設は県と現状バラバラな状況で修繕など何らかの要望を出しても話がなかなか前に進まないのである。だから、そここのところ、3年後に向けて十分検討して頂きたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

雨水に関しては、以前から校長から話を聞いており、対応しなければならないと考えている。関係機関と協議を進めているところで、課題としてしっかりと受け止めさせていただく。現場の校長先生から、御意見をいただきたい。

【佐藤秀雄】(好間高校長)

皆様から、非常に建設的な御意見を頂きまして、当校も、教職員に対して、前向きに統合について取り組むよう指導していきたいと思う。いわき総合高校と協力して話を進めていきたいと思う。ただ、令和6年度までは、好間高校は存続する。現在、好間高校で学んでくれている子どもたち、そして、令和5年度、令和6年度、入学してくれる子どもたちのために、しっかり教育をやっていきたいと思っている。当校は「少人数教育」を重要視しているので、これだけは、継続してやっていこうと思う。それで、先程から「校舎方式」という御意見が出てきたわけだが、私の個人的な考えだが、令和7年度の統合の際、できれば好間高校の2年生と3年生は好間高校の校舎に残していただき、少人数教育を継続できればと思っている。おそらく、規模の大きいいわき総合高校に来ると、支障をきたす生徒が出るのではないかと想定している。そこのところ、考慮していただきたい。

【菅野崇】（県立高校改革監）

在校生の学習環境の変化が課題だとの御意見であった。長く生徒さんを見てこられた、同窓会では、どのようなお考えか。

【吉田定聡】（好間高校同窓会副会長）

今、校長先生が言われた通り、私も、それに賛成である。私は、いわき市の高校の「フラダンス」クラブの支援を個人的にしている。それで、毎年10月に、一泊二日のスケジュールで浅草神社のイベントに参加させているが、その時の、浅草の方の反応は「いわき市の高校生は、大変礼儀が正しい」と、すこぶる評判が良い。それで、過去5回イベントに参加したが、ここ2~3年、コロナの影響で中断している。ただ、このイベントは、浅草の人も高校生の皆さんも、お互いに楽しみにしている。それで、このイベントを通じて「いわき市の高校生は、純粋な生徒が多い」と感じている。だから、もし、仮に、統合していわき総合の方に行ったら萎縮してしまう生徒が出てくるかもしれないので、そこのところを検討していただきたいと思う。浅草側の人たちは「毎年、いわき市の高校生をイベントに呼びたい」と言っている。私としては、フラダンスばかりでなく、浅草といわき、町同士の交流に発展できればと考えている。そういった意味では、いわき市の高校生が持っているものを、広く拾ってあげる事ができれば良いのではないかと考えている。

【伊藤さおり】（好間高校PTA会長）

好間高校には「地元の学校で、家が近いから通っている」という生徒が多い。それで、偏差値レベルの幅も広く、頭の良い子もいれば、そうでもない子もいる。そうになると、今度の統合によって、偏差値のレベルはどうなるのか。それから、県立高校改革の後期実施計画では、いわき総合と好間の統合の翌年に、四倉と平商業が統合されるとある。好間高校と四倉高校が無くなるという事は、普通科の高校が無くなるという事になる。それで「今まで、そういう高校に入ろうと思っていた子の引き受け先になるのは、何処になるのか心配だ」という声をとある中学生の保護者から聞いたので、本日、その件について質問してみようと思っていた。

【中野正人】（県立高校改革室長）

只今、御心配いただいたような生徒さんの進路先については、いわき地区の高等学校全体で考えていかなければならないと思っている。「ここここが統合するから、この学校に行

きなさい」などという事は、当然、我々は言えない。やはり、高校というものは、生徒さんの選択によって、進学していくものである。ただ、今、実施されている「きめ細かな指導」とか「生徒に寄り添った指導」というものは、どこの高校でも、求められている。だから、統合校でも、そういったところでは対応していこうと考えている。今、PTA 会長さんからあったような心配事について、我々としては、いわき市全体の高等学校、それから、統合後、受け入れ先になるような高校、それぞれ、しっかり見ていきたいという考え方で進めさせていたいただきたいと思う。

【菅野崇】（県立高校改革監）

それでは、好間高校との統合を予定している、いわき総合高校の校長先生の御意見を伺いたい。

【小林寿宣】（いわき総合高校長）

子どもの視点からすると、今まで、好間高校に入学をして、ずっと通学してきて、ある日突然、「いわき総合高校の校舎に通わなければならない」となったら、大きな負担になってしまうかもしれないと思うし、生徒の戸惑いとか、気持ちを考えると「校舎方式」が望ましいかと感じている。また、統合校だけれども、全く新しい学校を作る事と同じ事だと思う。大変な作業になると想定している。その点については、先程、好間高校の佐藤校長も仰ったが、好間高校の先生方と協力して、いろいろ考えていきたいと思う。

【中野正人】（県立高校改革室長）

前期においても、御意見に基づいて「校舎方式」を採用してきたケースはある。今回頂いた御意見を踏まえていろいろ検討し、次回の懇談会までには、改めて、お示ししたいと思っている。

【内田広之】（いわき市長）

2 回目の発言で恐縮であるが、今日は、皆さんすごく冷静に受け止めて、前向きな御発言を沢山されていて、本当に良い意見交換であったと感じた。統合の件が議題に上がると、往々にして、当局と地元の方々が対立してしまうような形になりがちなのだが、統合を前提の上で「どういうカリキュラムが良いか」とか、「どういう段取りが良いか」など、建設的な意見が出されて良かったと思っている。是非、このような話し合いをしている模様を細かい所は良いと思うが、議事録などを随時オープンしながら、加えて、中学生に対する説明も必要だと思うので、各中学校の「学校だより」のようなもので「今、このような話し合いが進められ、このような意見が出ている」という事や、先程出ました、具体的なカリキュラムの例などを示してもらい、「今、このような前向きな議論がなされている」というのを地元を示していく事が良いのではないかなと思う。そうしないと、例えば「中間まとめ」として方針が固まった段階で、いきなり発表してしまうと、地元の方は「そんな話は、聞いていない」という事になってしまうかもしれない。こういった会議は、フルオープンな会議の場であるが、全ての皆さんが参加するわけではないので、随時、こまめな情報発信をしていけば、良い感じで議論が進んでいくのではないかなと思った次第である。

【大沼博文】（県教育長）

長い時間、皆様から大変貴重な参考になる御意見を頂き、ありがとうございました。只今、内田市長が、上手くまとめてくださったので、私が話すまでもないのですが、冒頭、市長から「そもそも、この計画については『統合ありき』で進んできて残念だった」という話がありました。その言葉、私も真摯に受け止めたいと存じます。その上で、今日、皆様から頂いた御意見ですが、大きく分けて2つあったかと思っています。1つは「特色をどうしていくのか」という部分だと思っています。いわき市内には10を超える県立高校がございます。だからこそ「オンリーワン」の特色を持ってほしいと思いますし、統合高校においても、皆様からの御意見を頂きながら、統合高校ならではの、光る特色を打ち出していけるようにしていければと思います。あと、もう1つは、「地元の経済・産業と、どのようにつながっていくか」という事です。これにつきましては、これから、皆様から様々な御意見を頂き、加えて、子どもたちの意見も聞いてほしいという意見もありましたので、それらを含めて、しっかりと考えていきたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。今日は、ありがとうございました。

【菅野崇】（県立高校改革監）

本日頂きました貴重な御意見に関しましては、第2回以降の改革懇談会に向けて、精査していきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。

(5) 閉会